



TITLE:

新刊紹介

AUTHOR(S):

水野, 千里

CITATION:

水野, 千里. 新刊紹介. 天界 1936, 17(189): 112-113

ISSUE DATE:

1936-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167391>

RIGHT:

新刊紹介

天文
隨筆 **日本 の 星** 野尻抱影著 定価金 ￥ 1.50 研究社發行

本書は四六判 354 頁、挿圖 40。内容春の星、夏の星、秋の星、冬の星及び星名雜俎の 5 大部に分たれて居る。

著者が數十年來各地の友人、知己から乞ひ得られた星の和名と、身邊に蒐集せられて居た資料とを併せて整理し、比較考證されたものである。

萬葉集に恆星を歌つた有名なものがある。

^{あれ}
天の海に 雲の波立ち 月の船

星の林に こぎかくる見ゆ 柿本朝臣人麻呂

といふのである。日月、金星、七夕、天の川の歌はあつても、その他の星を歌つたものは見當らない。これによつて日本には、星の名……外國から來たものゝ外に、和名があるべきのにそれを調べたものを、見當らなかつたところ、野尻抱影氏が、その難事業を征服され、400 有餘の和名を得て發表されたことは大に人意を強うするに足るもので、海國たる我が國民が星に無關心であつたとはいへない。

今大熊座のところを見ると、ほくと(北斗)しそ1のほし(四三の星)なゝつぼし(七つ星)ナナチインプシイ(七つ星)チン・ナナチイ(天七つ)しちよ1のほし(七曜の星)ななよのほし(七夜の星)ひちじよ1さま(七星様)ひしやくぼし(柄杓星)しやくのえぼし(杓の柄星)しやもじぼし(杓子星)ひやくぼし(杓星)とつてぼし(把手星)しやくしぼし(杓子星)かぢぼし(梶星)かぎぼし(鍵星)

以上は何れも北斗七星のことである。

けんさきのほし(劍先の星)とは η (破軍星)のことである。ふなぼし(船星)は北斗七星中 α, β を除いた 5 星のことである。そへぼし(輔星)は ϵ の伴星 g のことである。

小熊座のところを見ると、ねのほし(子の星)きたのねのほし(北の子の星)ネノホ1ブシ(子の方星) = $1 \times \text{パ} \cdot \text{ブシ}$ (子の方星)めあてぼし(目当て星)

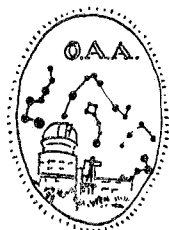
ひとつぼし(一つ星)きたの(北の)一つ星(北の)一つ星(北辰)みよ1けん(妙見)みよ1けんぼし(妙見星)ほくせい(北星)ほつきよくさま(北極様)きたのぼし(北の星)きたのみよ1じよ1(北の明星)以上は何れも北極星のことである。

やらいぼし(矢來星)ばんのぼし(番の星)は兩方とも β , γ 星のことである。にのぼし(二の星)は β 星, さんのぼし(三の星)は γ 星である。

此の如く各星座の主なる星には和名があることを述べてある。

本書は抱影氏數十年來の努力の結晶であつて實に尊ぶべき好著である。星の洋名と比較研究し、一方支那名を調べると得るところ尠少なからざるものがある。因て一本を必ず座右に備へ繙讀すべきであると、双手を舉げて賞讃する次第である。

水 野 千 里



宇野良雄氏描

花 山 道 路 へ の 追 想

山 本 先 生

謹啓 先月末御地旅行の砌は花山天文臺を參觀さして戴き、其上御繁忙中の先生より長時間に亙り「天文と思想」につきまことに意義深き御話を承り、のみならずあの天界偉人標のある思出の花山道路を御一所に歩くの幸福を得、路々の御高話の一節々々が實に印象深く、永く私共の心の糧と相成るべく厚く御禮申上ます。

尚私の想像を御許し下さるならば、先生が夕刻微風を浴びつゝあの花山道路を御下りになる間に「天文界の過去、現在、未來」「天文と人生」或は「日本、東洋、世界、宇宙」等につき、あの先生の豊富な御考へが高山の泉の如く御心の中に湧き出づるのではないか等と思はれまして、あの坂路を靜かに御下りになる先生が目に見へるやうな感じがいたします。

昨日旅より歸りまして、失禮乍ら手紙上にて御禮を申し上げます。

昭和11年11月8日

小 山 寛 一